Analytical Sciences 誌の国際化が進んでいます

高　柳　　俊　夫

Analytical Sciences 誌の副編集委員長を務めています高柳俊夫です．編集委員長の加地範匡先生（九州大），もう 1 名の副編集委員長の堀田弘樹先生（神戸大）はじめ，32 名の編集委員の先生方と編集にあたっています．2 年目の副編集委員長になり，投稿と査読に関係する皆様が滞りなく進められるよう編集業務に努めています．

さて，Anal. Sci. 誌は 2022 年に編集・出版等の業務が Springer Nature 社（SN 社）へ委託され，Editorial Manager 上で投稿・査読作業を行っています．SN 社への移行から 2 年半が経過し，各種データが蓄積してきましたので紹介させていただきます．まず，この 2 年間の投稿数ですが 2022 年に 555 編，2023 年に 599 編の投稿がありました．2 年間の総アクセプト数は 410 編となっています．国別投稿数は中国（300 編），日本（217 編），インド（206 編）の順となっており，イラン，エジプト，トルコと続きます．国別では 64 の国と地域から投稿されています．SN 社への委託前のデータ（薮谷智規先生，本誌 2021 年 8 月号とびら）と比較すると，海外からの投稿が国数・投稿数とも増えて国際化が進んでいます．各国の研究者に Anal. Sci. 誌の visibility が高まり，論文投稿の裾野が広がっているようです．また，2024 年 6 月に発表された 2023 年の最新の Anal. Sci. 誌のインパクトファクター（IF）は 1.8 で，昨年 2022 年の IF 1.6 から少し向上しました．しかし，本会からの発行となっていた 2020 年，2021 年からはやや低くなっています．編集・出版が SN 社へ移行した不連続性による一過性のものと考えられます．Anal. Sci. 誌が SN 社のジャーナルパッケージに入り契約機関もこれから増えてきますので，海外からの投稿は今後も増えることが予想でき，オープンアクセス化も進むことから，IF も今後上昇することを期待したいと思います．

本誌の国際化が進む一方で，その裏返しになりますが国内からの投稿数が頭打ちになっていることが懸念事項です．国内では Anal. Sci. 誌の認知度がすでに高いためとは思いますが，本誌の visibility や IF をあげるには国内研究者の皆様からの質の高い論文のご投稿が不可欠です．編集・出版業務が SN 社に委託されても，Anal. Sci. 誌は本会のジャーナルであり，会員の皆様のジャーナルです．会員の皆様には，本会 web ページにある「会員マイページ」から引き続き無料ですべての論文のアクセス・ダウンロードが可能です．Anal. Sci. 誌のプレゼンスや IF を高めるためにも，質の高い論文を引き続きご投稿いただけますようよろしくお願い申し上げます．

最後になりますが，Anal. Sci. 誌は本年が 40 年目であり，国際誌として一層発展していくためにも 40 周年の特集号企画も進めています．タイムリーな情報は，毎月配信されます「Analytical Sciences」メールマガジンをご参考にされてください．会員マイページから設定いただけます．会員の皆様からは投稿をはじめとした一層のご支援を Anal. Sci. 誌に賜われますようお願い申し上げます．

〔Takayanagi Toshio，徳島大学大学院社会産業理工学研究部，
「Analytical Sciences」副編集委員長〕